

# 1. 二酸化窒素 (NO<sub>2</sub>)

## (1) 全国の状況

平成11年度は、全国で1,854の測定局（一般局：1,460局、自排局：394局）において二酸化窒素の常時監視が行われた。長期的評価による環境基準達成局（1日平均値の年間98%値が0.06ppm以下の測定局）は、一般局で1,444局（98.9%）、自排局で310局（78.7%）となっており、その割合は平成10年度と比較すると一般局、自排局とも増加している（図1-1）。また、年平均値の推移を見ると、平成11年度においては前年度に比べ濃度が減少しているが、長期的にみるとほぼ横這いの傾向が続いている（図1-2）。平成11年度の減少は、自動車NO<sub>x</sub>法の特定地域における平成12年度上期の速報値をみると、一時的な要因によるところが大きいと思われる（表1）。

環境基準非達成局の分布についてみると、一般局については、東京都、神奈川県及び大阪府に分布しており、自排局については、自動車NO<sub>x</sub>法の特定地域を有する都府県（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、大阪府、兵庫県）に加え、北海道、石川県、静岡県、愛知県、三重県、京都府、岡山県、広島県、福岡県、長崎県の10府県にも分布している（図1-3）。

また、環境基準を超過した日数の割合を見ると、その日数は4月、5月、11月、12月、3月に多く観測されている（図1-4）。

\*平成12年度は速報値であり、データ確定の過程で若干変わる可能性がある。

自動車NO<sub>x</sub>法・・・自動車から排出される窒素酸化物の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法

図1-1 環境基準適合状況の推移

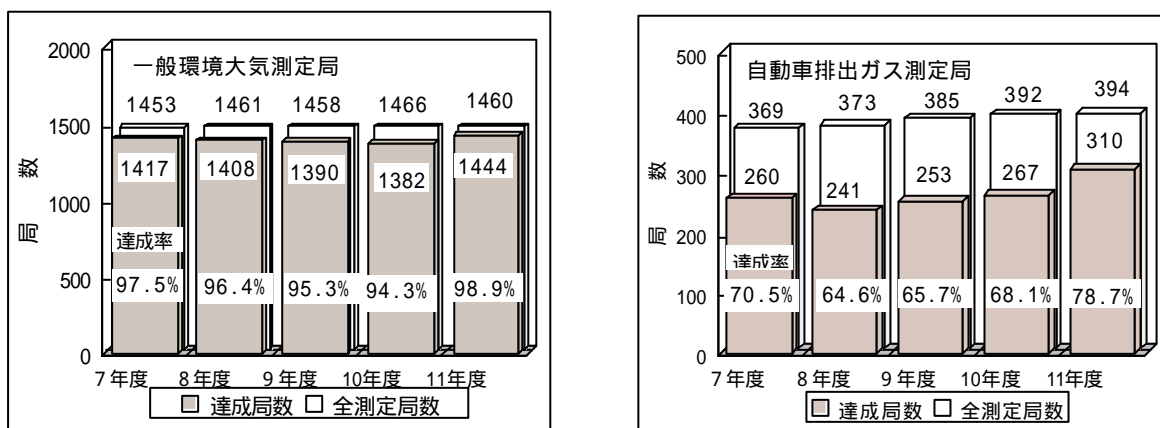
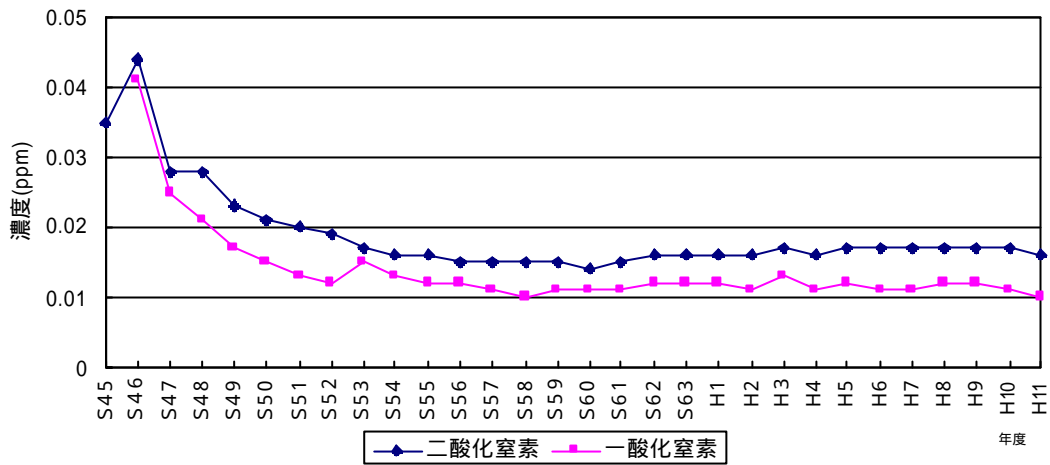


図 1- 2 全国の測定局における二酸化窒素及び一酸化窒素濃度の年平均値の推移

(一般環境大気測定局)



(自動車排出ガス測定局)

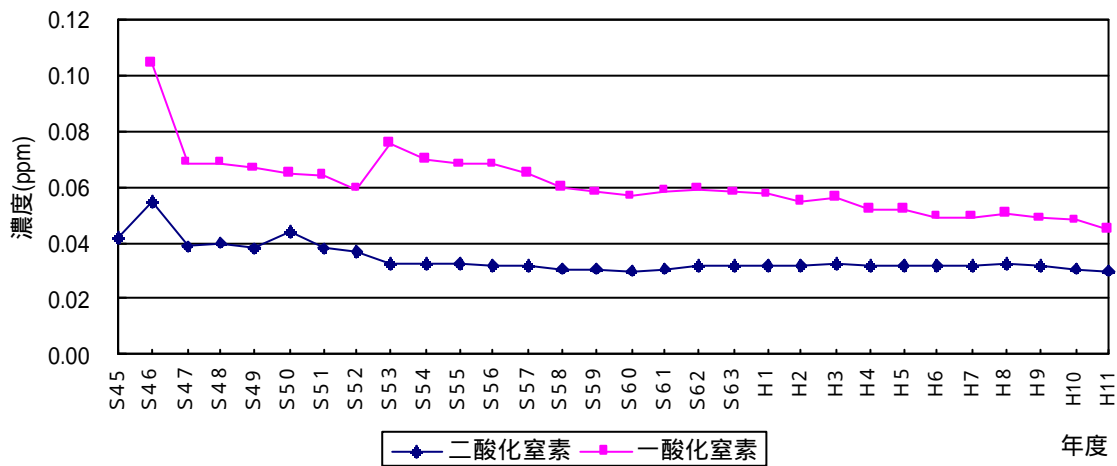


表1 平成12年度までの特定地域におけるNO<sub>2</sub>年平均値の推移

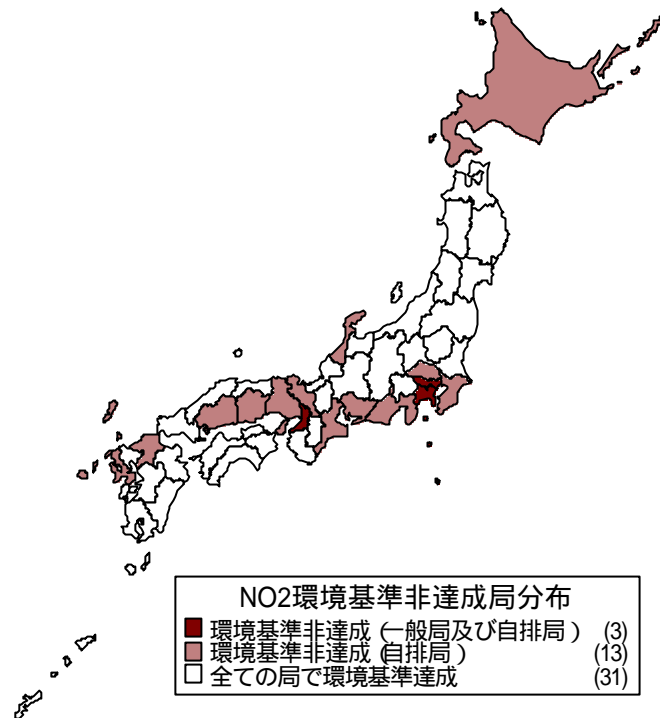
(単位：ppm)

(一般局)		平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
特定地域 全 体	年平均値 (4-8月の平均値)	0.027 ( 0.023 )	0.027 ( 0.023 )	0.025 ( 0.020 )	- ( 0.022 )
首都圏	年平均値 (4-8月の平均値)	0.028 ( 0.023 )	0.027 ( 0.023 )	0.025 ( 0.020 )	- ( 0.021 )
大阪・ 兵庫圏	年平均値 (4-8月の平均値)	0.026 ( 0.024 )	0.026 ( 0.022 )	0.024 ( 0.021 )	- ( 0.024 )

(自排局)		平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
特定地域 全 体	年平均値 (4-8月の平均値)	0.038 ( 0.035 )	0.038 ( 0.035 )	0.036 ( 0.032 )	- ( 0.035 )
首都圏	年平均値 (4-8月の平均値)	0.039 ( 0.035 )	0.038 ( 0.035 )	0.036 ( 0.032 )	- ( 0.034 )
大阪・ 兵庫圏	年平均値 (4-8月の平均値)	0.038 ( 0.036 )	0.037 ( 0.035 )	0.035 ( 0.033 )	- ( 0.037 )

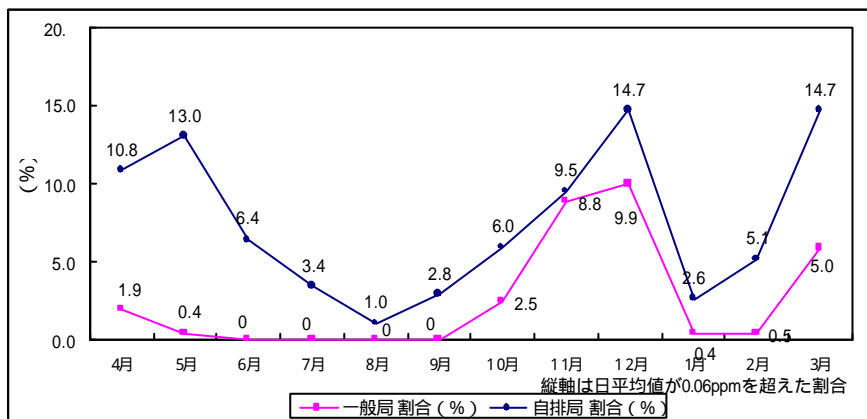
注) 年度を比較するため、平成9年度から平成12年8月までの有効継続している測定局について集計を行った。平成12年度は速報値であり、データを確定する過程で変わる可能性がある。

図 1 - 3 環境基準非達成局の分布



( )内は都道府県数を示す。

図 1 - 4 環境基準非達成局（一般局：16局、自排局84局）における高濃度測定日数の月別分布



( 2 ) 自動車から排出される窒素酸化物の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法の特定地域における状況

平成11年度は、特定地域全体で492の測定局（一般局：321局、自排局：171局）において常時監視が行われた。

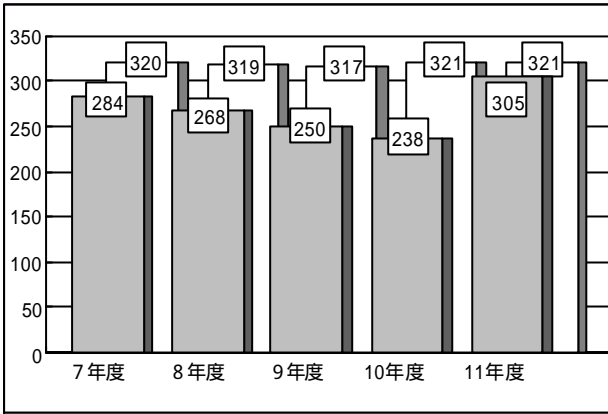
環境基準達成局は、一般局で305局（95.0%）、自排局で101局（59.1%）となっており、その割合は、平成10年度と比較して一般局、自排局とも増加している（図 1 - 5）。一方、特定地域内において過去10年継続して測定を行っている404の測定局（一般局：285局、自排局：119局）における二酸化窒素濃度の年平均値は平成10年度と比べ減少しているが、長期的にみるとほぼ横這いの傾向が続いており（図 1 - 6）、平成12年度上期の速報値をみると、平成11年度の減少は一時的な要因によるところが大きいと思われる（表 1）。

また、二酸化窒素濃度の関東地域及び関西地域における分布を見ると、高濃度が観測された測定局は都心部に集中している（図 1 - 7）。

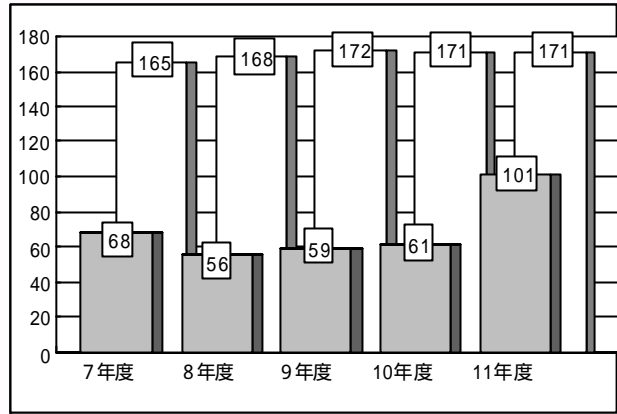
図1 - 5 自動車NOx法の特定地域における二酸化窒素の環境基準の達成状況

特定地域全体

一般環境大気測定局



自動車排出ガス測定局

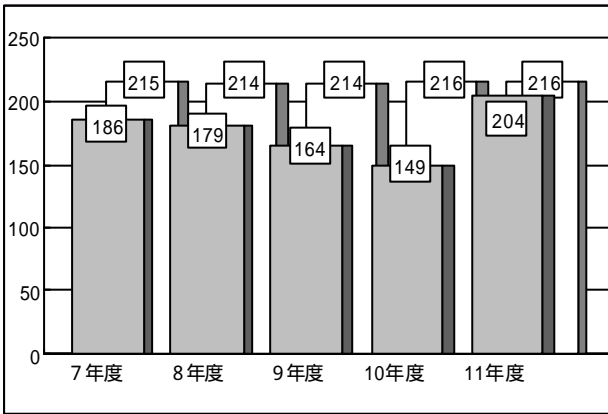


	H7	H8	H9	H10	H11
達成率 (%)	88.8	84.0	78.9	74.1	95.0

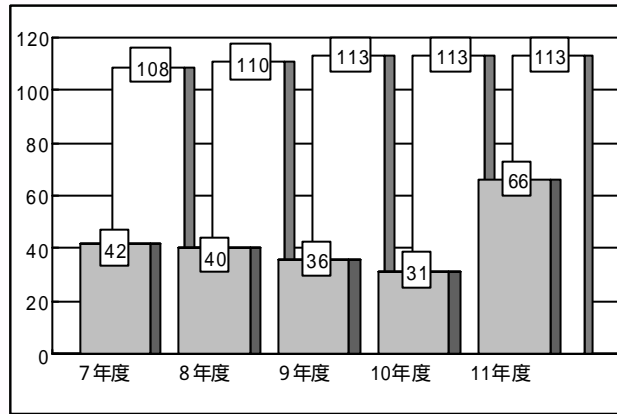
	H7	H8	H9	H10	H11
達成率 (%)	41.2	33.3	34.3	35.7	59.1

首都圏特定地域

一般環境大気測定局



自動車排出ガス測定局

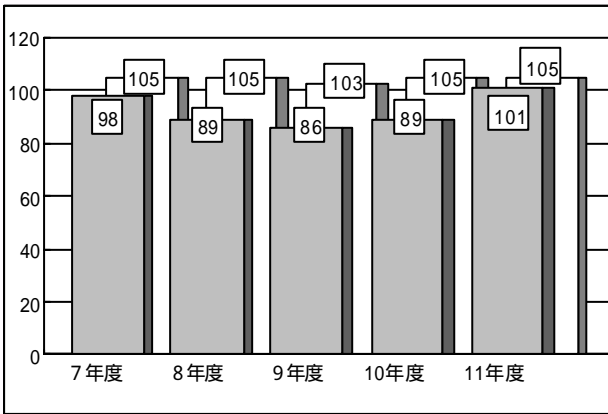


	H7	H8	H9	H10	H11
達成率 (%)	86.5	83.6	76.6	69.0	94.4

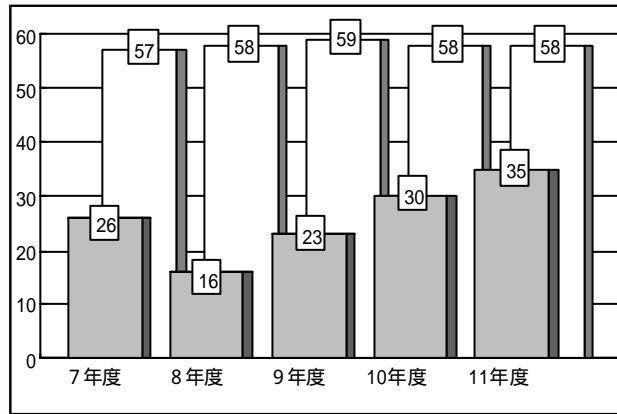
	H7	H8	H9	H10	H11
達成率 (%)	38.9	36.4	31.9	27.4	58.4

大阪・兵庫圏特定地域

一般環境大気測定局



自動車排出ガス測定局



	H7	H8	H9	H10	H11
達成率 (%)	93.3	84.8	83.5	84.8	96.2

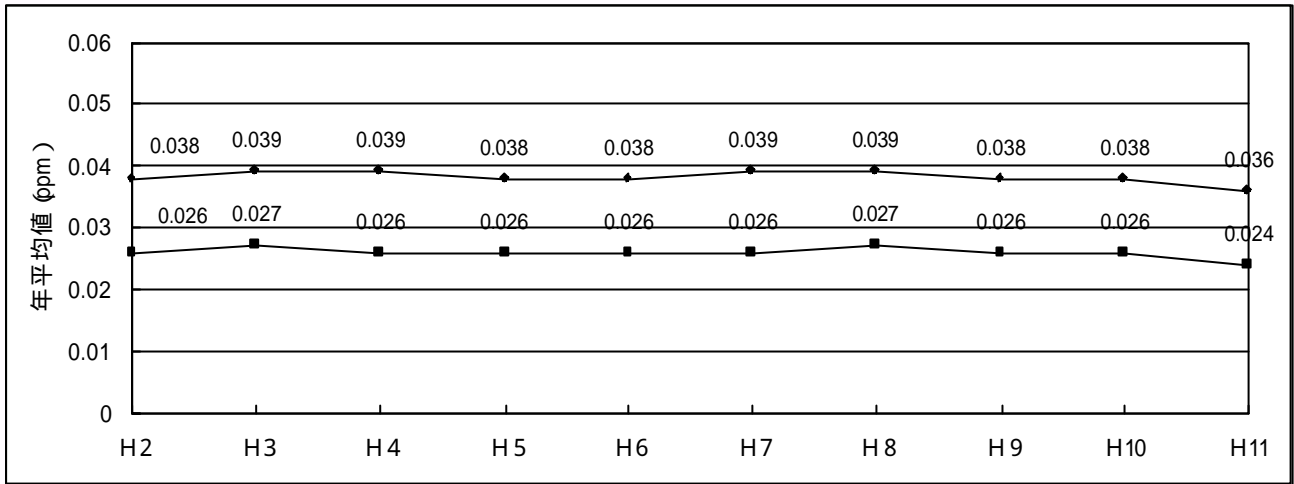
	H7	H8	H9	H10	H11
達成率 (%)	45.6	27.6	39.0	51.7	60.3

■ 達成局数 □ 測定局数

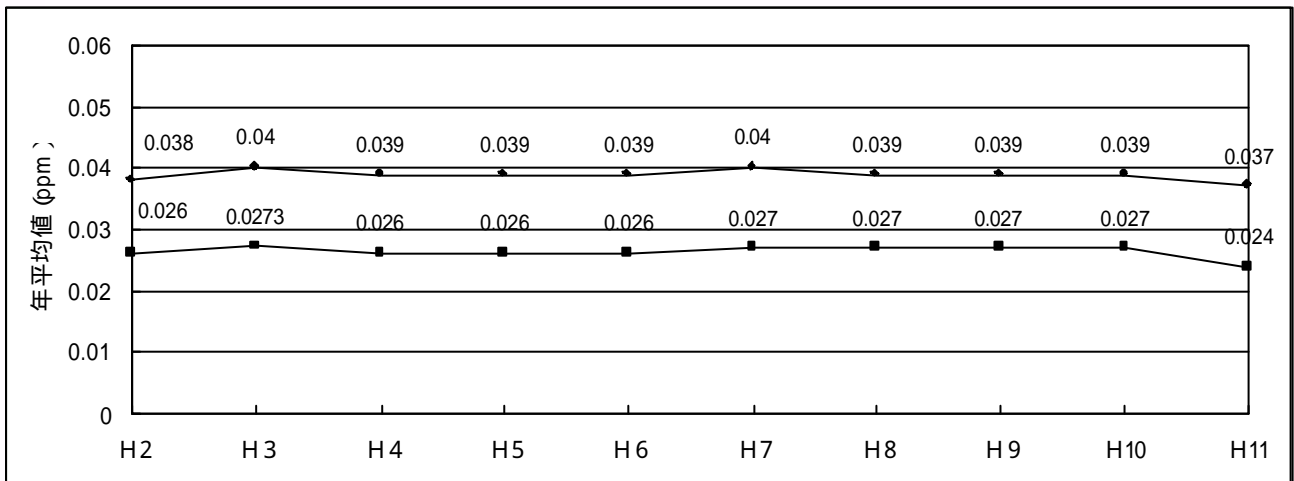
\* 縦軸は局数

図 1 - 6 二酸化窒素濃度の年平均値の推移（過去 10 年間の継続測定局の平均）

特定地域全体



首都圏特定地域



大阪・兵庫圏特定地域

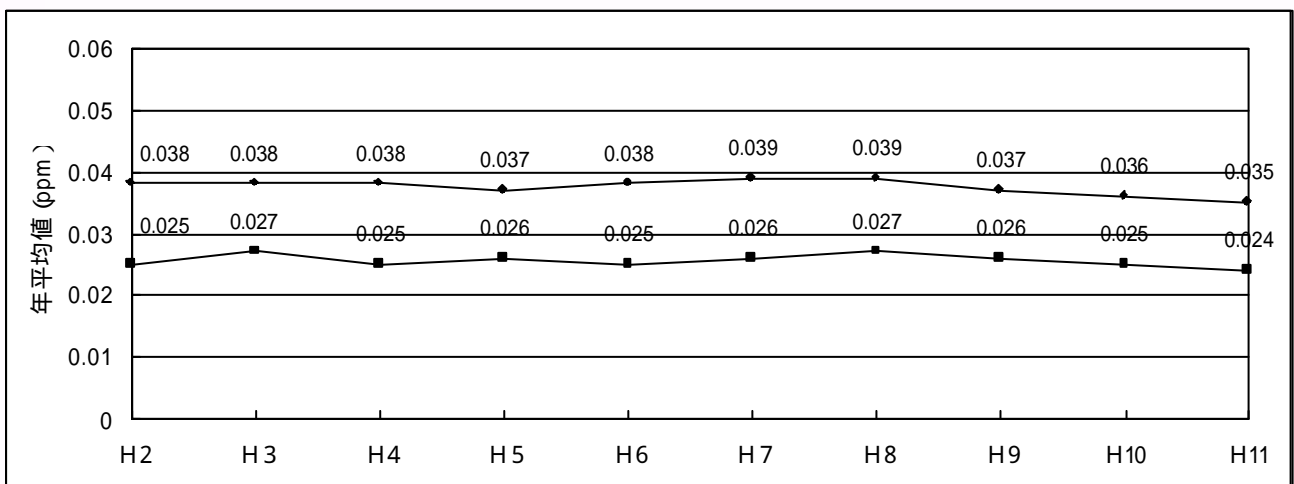
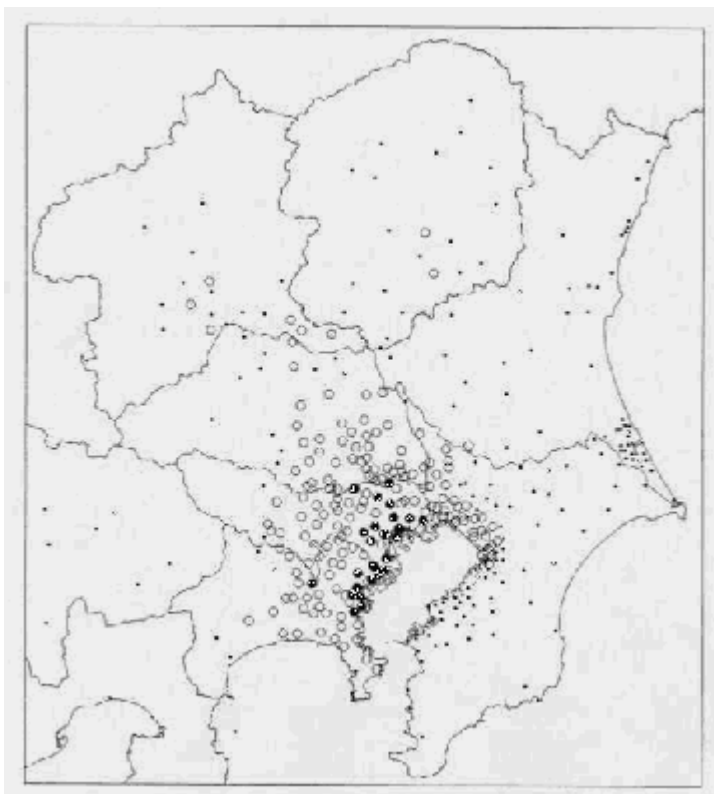


図1 - 7 二酸化窒素濃度の年平均値の分布（一般環境大気測定局）

関東地域

- : 年平均値が0.03ppmを  
超えた測定局
- : 年平均値が0.02～0.03  
ppmの範囲にある測定局
- : 年平均値が0.02ppm未満  
の測定局



関西地域

- : 年平均値が0.03ppmを  
超えた測定局
- : 年平均値が0.02～0.03  
ppmの範囲にある測定局
- : 年平均値が0.02ppm未満  
の測定局

